



年頭のあいさつ



公益社団法人 京都保健会
理事長 三浦次郎

自分で考えて

行動する人間になろう

秘密保護法成立・

生活保護法改悪等を受けて

あけましておめでとございます。

昨年12月、強行に強行を重ね、ごり押しで秘密保護法が成立しました。その陰で、目立ちませんでした。が、わずか数時間の審議で生活保護法の改悪が成立しました。

秘密保護法案に対しては、審議は限られていたが、その中でも、「何が秘密かが秘密」「自分が意図しなくても、知らない間に政府が指定した秘密を知ろうとしただけで罰せられる」などの問題が明らかになるに伴い、日ごとに各界・国民の反対が広がっていききました。今まで政治に関心の無かった市民が国会周辺や各地の集會に集まり、手製のプラカードを持って反対の声を上げ、あるいはパレードをする姿は、この20〜30年見たことのない光景で、感動を覚えまし

た。

さらに今までの運動と異なるのは、法案が成立した後も、なお運動が広がっているということです。秘密保護法成立後の最初の日曜日、12月8日に四条河原町に行きました。そうすると、円山公園から、秘密保護法廃止を求めるパレードがやってきました。賑やかに太鼓を鳴らしながら、ラップにあわせて、数百人の人が参加していました。その多くが若者でした。日本はまだ変われる、良い国にする力があると、心が躍りました。

今、日本は、闇に閉ざされ、普通の国と同じく戦争をする国になるのか、それとも、日本国憲法に謳われている国民主権・戦争放棄・基本的人権などを発展させる国になるのか、岐路に立っていると思います。

「自分で考え、行動する人」|| 「主権者」だと思えます。この国の主権を持つ者として、自分で考え、行動しようではありませんか。



尾崎 京都民医連会長知事選に

尾崎望会長(かどの三条こども診療所前所長)は、4月の知事選挙に立候補を決定されました。それは、診療のなかで子どもの貧困を目の当たりにすることが増え「貧困の再生産を断ち切るために地方自治体ができることは少なくない」との思いでした。

多忙の中、府内を駆け回り、①「貧困の再生産」を許さず、どの子も健やかに育つ条件作り、子どもの医療費の負担軽減 ②国の社会保障改悪に絶対反対、高齢者の医療と介護の費用軽減、③大企業優先でなく循環型経済の確立、中小企業振興基本条例の制定など京都経済を支えてきた中小企業、伝統産業を支援、④府がリーダーシップを発揮し、各地の地域再生の取り組みを全力で応援、⑤原発と共存は不可能、原発ゼロ、憲法守り戦争への道を許さない、丹後半島Xバンドリーダーは許さない、//ひと・いのちが輝く京都府へ」と訴え、「ここに生まれ育ち、年を重ねたいと思える京都」を取り戻すため力を合わせましょうと呼びかけられています。

詳しくは、<http://kyoto-yonaoshi.jp/>